



今回は・・・



救命について

大学というところは、学生を始め多くの人が集まる場所です。また現在、異常気象や災害が増えている中、災害時非難場所にもなるため、救命を必要とする場面に遭遇する可能性も高くなります。

心停止の傷病者の命を救うには、まずその場に居合わせた市民が迅速に119番通報をし、応急手当を行った後、救急隊に引き継ぎ、高度な救命処置と迅速な搬送がなされ、そして医師へと引き継がれて高度な救命医療が行われる必要があります。

大阪商業大学では、緊急事態に直面した時により多くの人々が迅速に対応できるよう保健室が中心となって職員向けの救命講習を行っています。毎年7月には課外活動支援室中心で学生向けにも講習が実施されています。

日本において、通報から救急車が到着するまでの全国平均は約8.6分(*1)、東大阪市では約7.6分です。大阪商業大学は消防署が隣接しているため、通報からすぐに救急車は到着しますが、救命処置の開始が遅れるにつれて、命を助けることは急速に困難となりますので、1分どころか1秒でも早い応急手当の開始が重要なのです。

そこで、今回は応急手当の重要性とその方法について述べたいと思います。



救命の連鎖



救命の連鎖とは、心停止の傷病者や、その危機に瀕している傷病者を救命し、社会復帰に導くために必要な一連の行いのことをいいます。『心停止の予防』『早期認識と通報』『一次救命処置(心肺蘇生とAED)』『二次救命処置と心拍再開後の集中治療』の4つの輪から成り立っており、この4つの輪が途切れることなく素早くつながることで救命効果が高まります。最初の3つの輪は、その場に居合わせた人が関わる部分で、とても重要な要素です。

救命の連鎖 (*2)



(*1)：総務省消防庁「平成30年度版救急救助の現状」

(*2)：救急蘇生の指針2015(市民用)より転載 (監修：日本救急医療財団心肺蘇生法委員会)

一つ目の輪：心停止の予防とは

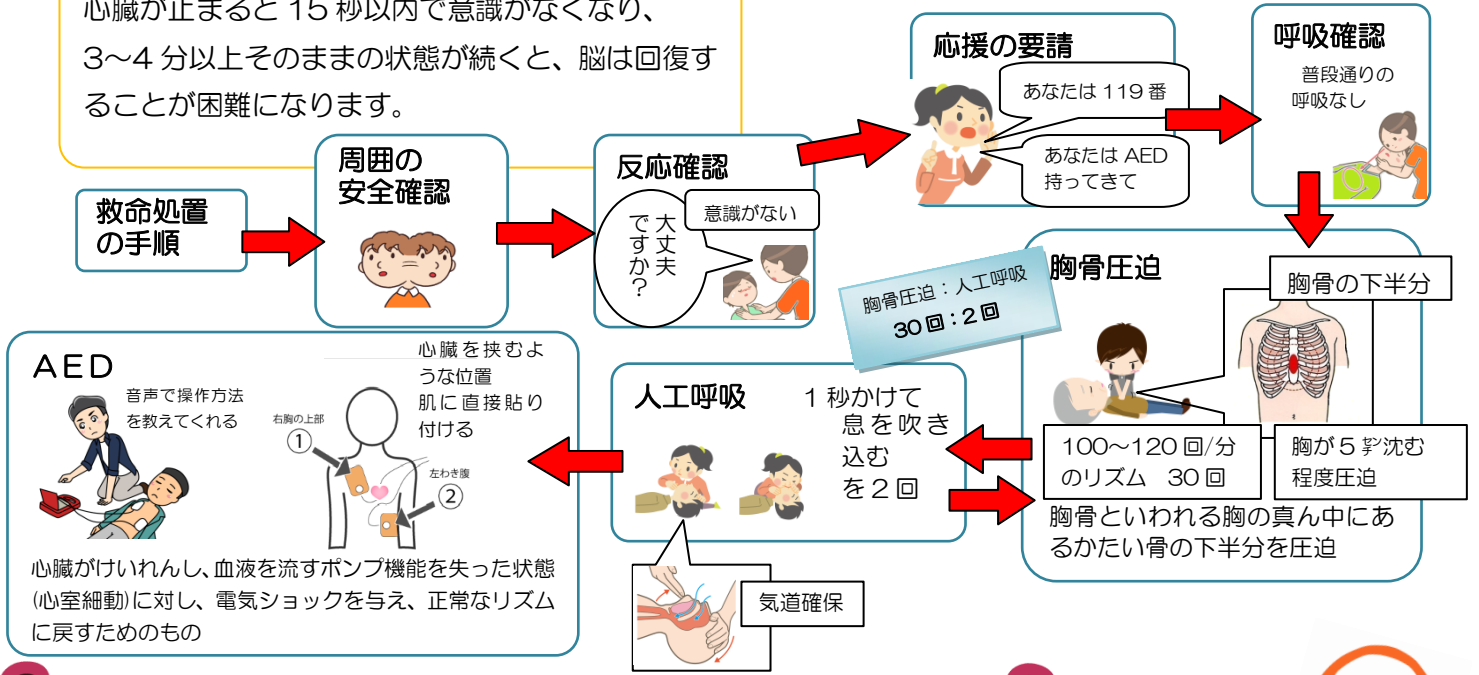
日常生活の中で、注意することで予防できるものです。
けがや溺水、窒息などによる不慮の事故を未然に防ぐ。生活習慣の改善で心筋梗塞や脳卒中などの発症リスクを減らす。

三つ目の輪：一次救命処置(心肺蘇生とAED)

一次救命処置とは、心肺蘇生とAEDの使用によって、心臓の動きを取りもどすことです。
心臓が止まると15秒以内で意識がなくなり、3~4分以上そのままの状態が続くと、脳は回復することが困難になります。

二つ目の輪：早期認識と通報

突然倒れた人や反応のない人を見かけたら、直ちに心停止を疑うことが大切です。
もし、心停止かもしれない状態の人を見かけたら大声で応援を呼び、119番通報とAEDも手配を依頼し、AEDや救急隊が少しでも早く到着するように行動しましょう。



大学内に7カ所AEDが設置されているのを知っていますか？

街のどこにAEDがあるのか教えてくれるアプリもあります

- ① リアクト南館
- ② リアクト北館



- ① リアクト南館 1階
- ② リアクト北館 4階 カウンター内
- ③ 正門
- ④ 図書館 4階
- ⑤ 4号館 1階 エントランス
- ⑥ 喫茶前
- ⑦ 体育館 1館

※学外の
関谷グラウンド、S-dorm、
学生会館にも設置しています。



救急車を呼ぶ？ 病院へ行く？

こんなときは「救急安心センターおおさか」へ

#7119

つながらない場合は、06(6582)7119

心停止の状態でなくても、緊急時にどうしたらいいかわからないときは、119番の頭に#7をつけた「#7119」に電話をするとその対処法などを教えてもらえるので活用してみてください。

保健室には、2名の看護師がいます。救命処置をもっと詳しく知りたいなど何かあればいつでも聞きにきてください。